



日光国立公園・奥日光地域（日光市） のゼロカーボンパーク登録

※令和4年7月22日時点

1. 日光国立公園・奥日光地域

- ・奥日光地域は、山岳や湿原、瀑布などが箱庭のように凝縮された地域で、湯ノ湖、湯川、戦場ヶ原、小田代原は、ラムサール条約湿地に登録
- ・登山、ハイキングのほか、湖沼での水上アクティビティなども盛んで、多くの利用者が訪れている
- ・日光市は、令和3年12月にゼロカーボンシティを表明



半月峠から見た奥日光の景観

2. 日光市のゼロカーボンパークの取組

サステナブルツーリズムの推進

- ・環境教育やサステナブルツーリズムの実践により、国立公園の豊かな自然環境の維持や生物多様性の保全への理解醸成を進めていく

脱炭素に向けた再エネの導入の推進

- ・国立公園内における温泉排熱の有効活用に向けた調査・検討、温泉供給設備の高効率化を促進
- ・再生可能エネルギー適正利用に向けた蓄電池活用などエネルギーの有効活用、環境にやさしい交通・自動車利用の推進を検討



日光国立公園・奥日光地域（日光市） のゼロカーボンパーク登録

※令和4年7月22日時点

サステナブルな交通の実現

- 小田代原や千手ヶ浜周辺では、自然環境を保全するため、一般車両の通行を規制し、代替手段としてEVバス等の「低公害バス」を運行し、脱炭素の取組を推進
- EV利用促進やMaasの活用などを通じて、日光国立公園全体の脱炭素の具体的な取組を進める



自然環境保全のために導入したEVバス

国立公園利用拠点などにおける普及啓発

- 観光地PR用ノベルティの再生プラスチック使用やパンフレット配布用袋の紙袋化の検討
- マイバックキャンペーンやエコショップ認定を行い、環境配慮への理解を深める取り組みを実施
- ゼロカーボンパーク（サステナブルな観光地）としてのPR活動を実施

3. 環境省における対応

- ゼロカーボンシティ支援に活用しているエネルギー対策特別会計予算及び自然公園等整備費等の既存予算をパッケージとして支援する他、関東地方環境事務所が連携をとりながら伴走支援